

平成 19 年 7 月 26 日



各 位

東燃ゼネラル石油株式会社
東京都港区港南一丁目 8 番 15 号
代表取締役会長兼社長
ディー・ジー・ワスコム
(コード番号: 東証第 1 部 5012)
問合せ先:
エクソンモービル有限会社
広報渉外部
Tel: 03-6713-4400

東燃ゼネラル石油(株) 平成 19 年 12 月期 中間業績予想の修正に関するお知らせ

東燃ゼネラル石油株式会社は、平成 19 年 2 月 19 日に発表した平成 19 年 12 月期 中間期(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日)の連結および単体業績予想を以下の通り修正いたしましたのでお知らせします。

1. 平成 19 年 12 月期 中間業績予想の修正

連結業績予想 :

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間(当期) 純利益
今回修正予想(A)	14,054	264	284	171
前回発表予想(B)	15,100	220	220	130
増減額(A-B)	▲1,046	44	64	41
増減率	▲6.9%	20.0%	29.1%	31.5%

(B)平成 19 年 2 月 19 日発表

単体業績予想 :

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間(当期) 純利益
今回修正予想(A)	13,782	100	143	99
前回発表予想(B)	14,800	100	130	90
増減額(A-B)	▲1,018	0	13	9
増減率	▲6.9%	0%	10.3%	9.6%

(B)平成 19 年 2 月 19 日発表

2. 修正の理由

平成 19 年 12 月期の中間期連結営業利益は、本年 2 月時点での予想より 44 億円増の 264 億円となる見通しです。今回の修正は主に以下の要因によるものです。

(1) 石油化学製品マージンの増加

引き続き堅調な石油化学製品の需要を反映し、オレフィン、芳香族を中心とした主要生産品目のマージンは、本年 2 月時点の予想を上回りました。

(2) 石油製品の収益悪化

石油製品マージンは、本年 2 月時点での予想よりも大幅に低下しました。これは、上半期(1-6 月)の原油価格の上昇、特に第一四半期(1-3 月)における急騰により原材料コストが上昇したことが主な要因です。また、石油業界では一般的に、原油調達コストを原油がわが国に到着した時点で認識するのに対し、当社は積荷時点でこれを認識するため、原油価格の上昇を他社よりも約 1 ヶ月早く認識することになります。このため、期中の原油価格の上昇(ドバイ原油ベースでバレルあたり 14 ドルの上昇)がそのまま上半期の業績に反映されました。一方、原油および石油製品の価格上昇は、当社が採用している在庫評価方法である後入先出法に基づく低価法による在庫評価益をもたらしました。本年 2 月時点での予想では、在庫評価の影響を見込んでいませんでしたが、少なくとも 180 億円の在庫評価益が発生し、原油価格上昇による上記の石油製品の収益悪化をある程度相殺する見通しです。

これらの結果として、平成 19 年 12 月期の中間(当期)純利益は、本年 2 月時点での予想より 41 億円増の 171 億円となる見通しです。通期業績予想に関しては、8 月の中間決算発表の時点で再度検討いたします。

平成 19 年 12 月期の中間期単体営業利益は、本年 2 月時点での予想どおり 100 億円となる見通しです。なお、単体業績と上記連結業績との差異は、当社の主な子会社である東燃化学株式会社の好業績が連結業績に貢献したことによるものです。

3. 配当見直し

1 株あたり年間 37 円の本年 2 月時点の配当予想は変更いたしません。

以上